

第3次杵築市総合計画(案)に係るパブリックコメント募集結果について

「第3次杵築市総合計画」の策定にあたり、パブリックコメントを実施しましたので、いただいた意見に対し、次のとおり本市の考え方を公表します。
今回、ご意見をお寄せいただき誠にありがとうございました。

1. 募集期間 令和6年10月1日(火)から令和6年10月31日(木)まで(31日間)
2. 募集結果 9件(2人)
3. 意見と回答

No.	意見の概要	市の考え方
1	杵築インターチェンジ周辺における各種インフラ開発を行ってほしい。	本意見は個別具体的なものであるため、今後のまちづくりにおける貴重な意見としてお受けし、関係課へ共有を行います。
2	第3次総合計画の基本構想には、「第2次杵築市総合計画」の6つの基本方針の達成度が一言も触れられていない。その理由は不明であるが、想像はつく。5つの「目指すまちの姿」に代表される、基本構想と基本計画の達成度を測定・評価する制度・手続きがないためである。総合計画は最上位の計画という位置づけから、基本計画と基本構想レベルの指標は、行政サービス受益者である市民が達成度を測定できる便益(ベネフィット)でなければならない。具体的には、総合計画の基本方針と市民アンケートの設問の無関係さに象徴される、「市民アンケート」が機能していないことである。このままでは、第3次総合計画も同じ轍を踏むことは、容易に想定できる。行政サイド単独で収集した不完全な情報・データに基づく、根拠が薄弱な第3次総合計画の策定である。	計画策定にあたりまして、第3次杵築市総合計画については令和7年からの10年間の本市のまちづくりを推進する基本構想と5年間の基本計画(前期)となっており、第2次杵築市総合計画の達成状況は載せておりませんが、達成状況については毎年、基本計画(施策)及び事業単位での評価を実施しております。また、市民アンケートの設問については第2次杵築市総合計画の基本計画(施策)の評価や今後、本市が目指すべきまちの方向性等を設問に設定し、令和5年度に市民アンケートを実施しています。さらに市民ワークショップや杵築高校の総合的な探求の時間等により、市民意見の収集を行っております。今回、いただいたご意見を基に次回市民アンケートの設問については検討していきたいと考えます。

No.	意見の概要	市の考え方
3	それでも、第3次総合計画は一步前進している。総合計画策定における根拠となる情報・データの重要性を冒頭の将来像の図(21ページ)で指摘している。総合計画の基礎となる、「社会の動向」、「市の現状」、「市民の声」の3要素が、第3次総合計画の出発点と認めている。「社会の動向」はさておき、残念ながら「市の現状」と「市民の声」は、全市的なデータ基盤が整備されていない。理由は簡単である。総合計画策定に必要なデータを整備するには、強い政治的な公約とさらに多くの財源が求められるからである。それゆえ、これこそ総合計画に組み込むべき、「重点プロジェクト」である。データ基盤整備については関連分野の進捗により、10年前に比べればハードルは下がっている。「市民アンケート」に代わる全市(横断)的なデータ基盤の整備を、「重点プロジェクト」に追加して欲しい。	本計画に掲げている「重点プロジェクト」については、本市が直面している人口減少に対して基本計画で掲げる25施策を横断して推進すべき取組として設定しております。また、市民アンケート以外にも市民ワークショップや杵築高校生による杵築市が抱える課題に対しての解決策提案のように市民の意見を収集・提案をいただく機会は設けさせていただき、計画へも市民意見を反映させていただいております。いただいたご意見の市民アンケートに代わる全市(横断)的なデータ基盤の整備については今回、本市が設定した「重点プロジェクト」には組み込んでおりませんが、市としても進めていくべき点として今後の業務の参考とさせていただきたいと考えます。
4	「将来像」として「みんなで創り好きになる健幸都市きつき」を掲げている。その説明のため「基本構想の構成」(22ページ)で5つの「めざすまちの姿」を掲げている。ところが、これらの「めざすまちの姿」がいずれも、「10年後の目指す姿」(21ページ)である状態や状況でなく、なぜか「みんなで～まちづくり」という活動や運動となっている。すなわち「将来像の説明図」(21ページ)が示す10年後の将来像は、いつまでたっても達成できたかどうか分からない目標になっている。最初から基本構想の構成ロジックが崩れており、読む気になれない。それでも、5つの「めざすまちの姿」の説明文(23～27ページ)を読むと、日本語文書として読みづらい。理由は以下3点ある。 ①まず、「まちづくり」の多用である。これは、中央省庁が使い始めた行政用語であり、普通の辞書に載っていない。いかようにも解釈できるため、用語使用者に都合の良い言葉である。逆に、肝心の行政専門家も一言で説明できないため、聞く方である市民はわかった気にならざるを得ず、行政の作る総合計画について焦点を絞った議論しにくい。 ②ひらがなの多用である。「めざすまち」を初めとして、キーワードとなる5つの「みらい」、「けんこう」、「にぎわい」、「くらし」、「しくみ」が冒頭から飛び出す。各々、「総合計画の目標」、「未来」、「健康」、「繁栄」、「生活」、「仕組み」であれば、総合計画基本構想の構成や分類について議論できる。行政計画における意図的なひらがな使用は、中央省庁、県庁、コンサルタントなど行政専門家では常套手段かもしれないが、普通の市民の立場からは違和感を感じない。 ③「みんな」の多用と紙面デザイン優先による読者の思考分断である。市民と行政の協働を強調したいようだが、段落構成、文字の色、フォントサイズ、挿絵が混入したレイアウトでは、文章がまともに読めない。特に、行政の意思と市民への呼びかけが混在し、主語や主役が切り替わるため、読むのが苦痛である。ここまでくると、読む方としては、第3次総合計画を誰に読ませたいのか、読ませたくないのか、疑問が湧いてくる。「みんな」と言いながら、行政の役割と市民の役割を混在させているため、第3次総合計画は、誰が誰のために策定し、誰が実行し、誰が評価するのかごちゃ混ぜになっている。	将来像については本市が10年後に目指すまちを表しております。めざすまちの姿については将来像を達成するために必要な各分野(農林水産業や地域福祉、学校教育等)を施策で体系的にお示しをさせていただいているものになります。まずは、基本計画(前期)の施策ごとに達成すべき「めざすべき姿」を設定し、それらが達成され、将来像へとつながります。目標達成の点については毎年度実施します施策評価にて進捗状況を着実に把握をし、まちづくりに努めてまいります。 ①「まちづくり」とは本市が様々な行政運営を通じて、市民の方が住み続けたい、市外の方が住んでみたい・魅力を感じるような杵築市にしていくといった意味を込めております。総合計画はまちづくりの最上位計画であり、都市の街並みやインフラ形成のみでなく子育て、教育、イベントなどソフト面での対策を行うなど地域活力の構築を含めたものとして策定しています。 ②ひらがなを使った表現についてですが、市民の方に向けて、やわらかく、様々な思いや考えで受け止められるように表現をするという思いでひらがなを使用させていただいております。庁内、外部委員による審議会の中でも議論をさせていただきまして、ひらがなを使った表現にさせていただいております。 ③デザインやフォントサイズ、挿絵につきましてはパブリックコメントと同時並行して作業を進めておりまして、市民の皆様が読みやすく、分かりやすいものにしていきますので、公表の際にご確認をお願いできればと思います。また、市民の参画をいただき、その意見を反映させていただくことで行政として施策を実施していくために策定を行っております。

No.	意見の概要	市の考え方
5	「基本姿勢」(28ページ)は、ここでも日本語文書として読みづらい。理由は以下3点である。 ①まず、「基本姿勢」の位置づけの説明文書がないため、唐突であり、ここで掲げる「みんなで創る」がなぜ、第3総合計画の「基本姿勢」になるのか分からない。「基本構想の構成」図(22ページ)では、「基本姿勢『みんなで創る』」の対象が「重点プロジェクト」になっているが、「基本姿勢」の説明文書(28ページ)では、重点プロジェクトは一言も出ず、よく読むと「まちづくり」が「基本姿勢」対象になっている。 ②2番目は、「基本姿勢」の3つの語句である。そのまま引用すると『～多様な主体が参画する 市民が主役～』、『～住みよさを感じられる 愛着と誇り～』、『未来へ引き継ぐ 持続可能性～』となる。基本姿勢というからには、第3次総合計画「まちづくり」の進め方が、この3つの語句で表す姿勢に沿っているかをチェックするための重要な指針になるはずであるが、上述3つの文言は誰がどこでどう使うのか。たとえば、第3次総合計画の25施策(39ページ以降)について、3つの「基本姿勢」が適用されているかを確認するには、3つの長い語句は日本語として不自然で使えない。すなわち第3次総合計画策定者以外の「みんな」は3つの語句を覚えられない。 ③3番目は、「基本姿勢」の各説明文書は、「まちづくり」との関係で『「みんな」で創る』の中で「みんな」がどのようにかわればよいのかが分からない。各説明文書は、このままでは行政専門家の「まちづくり」における行政サイドの希望や留意点すぎない。	①「基本姿勢」の位置づけについてですが、簡潔に将来像を達成するためのまちづくりを行う際の基本姿勢として掲載しています。次に構成図ですがご意見の通り、重点プロジェクトのみに対するものと見えるため、修正をいたします。 ②「基本姿勢」の3つの語句については『多様な主体が参画する』として、市民が主役(協働のまちづくり)、『住みよさを感じられる』として愛着と誇り(シビックプライド)、『未来へ引き継ぐ』として、持続可能性(SDGs)の考えをベースに設定しております。また、基本姿勢については総合計画の将来像を達成するために進めるまちづくりの際の考え方としての取扱にしておりますので、行政はもとより、市民や事業者等の多様な主体が使うことを想定しております。 ③将来像(21ページ)の説明に記載しておりますが、「市民、事業者、行政など多様な主体が、お互いを信頼し、ワンチームとなって「みんなで創る」まちづくりを進めていきます」と記載しており、将来像を達成するための各取組(25施策)を実施する際に関係する様々な主体がそれぞれの状況や立場に応じてまちづくりに関わってもらいたいと考えております。
6	「重点プロジェクト」(29ページ)についても唐突である。ポジションが分からない。どこから湧いてきたのかを知りたい。「重点プロジェクト」と5つの「めざすまちの姿」に基づく5つの「まちづくり」と25施策の関係が分からない。たとえば、人口減が10年間続いても、5つの「めざすまち姿」が達成できればよいのか。それとも逆に、人口減が続いたら、10年後の「めざすまちの姿」と「まちづくり」の「基本構想」に基づく25施策は間違っていたことになるのか。市民との議論が尽くされないまま、中央省庁の政策を従来の延長で重点プロジェクトとして置いたに過ぎない。コンパクトシティについても、5つの「めざすまちの姿」とどのように関連付けるのか。コンパクトシティ化で、5つの「めざすまちの姿」を実現する見通しがあるのか。コンパクトシティは1,700ちかくある市町村を管轄する中央省庁が推進する普遍的手法であるが、複雑な地形を持つ杵築市にとって最適な手法という見通しや根拠はあるのか。他の手法を比較検討しているのか。	「重点プロジェクト」は、本市が直面している人口減少に対して基本計画で掲げる25施策を横断して推進すべき取組として設定しています。 25施策を実施していきますが、個別に実施するだけでなく、施策を連携させることで、よりよい「まち」とするため、事業を横断するよう戦略的にしているものです。 コンパクトシティについては重点プロジェクトのうちの1つの取組であるため、残り2つの取組と同時に各25施策を推進することで将来像の実現が達成できるものであると考えております。そのため、コンパクト・プラス・ネットワークの形成を行い、居住や都市機能の集約化を行うと同時に公共交通ネットワークを連携させることにより、市内各地域の特色を活かしつつ、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要であると考えています。 いただいたご意見を基に将来像の実現に向けて取組の推進に努めてまいります。

No.	意見の概要	市の考え方
7	「都市空間形成の方針」(30ページ)は、最も問題が大きい。理由は2つある。まず、5つの「めざす姿」の「まちづくり」と異なる、4つの「まちづくり」が現れ、続いて4ゾーン、7つの骨格となる拠点、3交通軸が現れる。『杵築市自治基本条例』に従えば、総合計画は行政運営の総合的な指針である。5つの「まちづくり」と4つの「まちづくり」については、どこを向いて市民と行政は動くのか。2番目の問題は、「第3次総合計画」の指針となる「基本構想」の中で、7つの骨格となる拠点として具体的名称がはじめて使われる点である。たとえば、生活拠点としての「溝井」、「片野」、「守江」、「奈多」、「立石」である。ところが、『杵築市自治基本条例』では、『市民は、地域コミュニティの役割や位置づけを認識して「まちづくりに参画すべし』となっている。実際、杵築市民は13地区の自治協議会に所属し、行政の『協働のまちづくり指針』に基づき「まちづくり」に励んでいる。上記4拠点を地域コミュニティで表すと、「北杵築地区」、「東地区」、「奈狩江地区」、「立石地区」の4地区である。7つの骨格となる拠点のどこにも触れられない13地区内の「向野地区」、「山浦地区」、「東山香地区」、「上地区」、「大内地区」に住む市民は何を思うだろう。総合計画としては、不完全である。すなわち、「都市空間形成の方針」は、下位の『杵築市都市計画マスタープラン』と『杵築市立地適正化計画』を抜粋して置いているだけである。最上位の第3次総合計画に下位の2計画から行政にとって都合の良いところのみを紛れさせている。「将来像」と「基本姿勢」の「みんなで創る」の「みんな」の説明を避け、「都市空間」のみが出現するために、読むのに思考が分断する。不完全な「都市空間形成の方針」に先走り、杵築市の「まちづくり」を担う「みんな」が住む13地区の地域コミュニティの説明が欠落しているのは致命的欠陥である。言い換えれば、杵築市は、13地区の地域コミュニティから構成されているという一番大事な市民の視点が、第3次杵築市総合計画のどこにも書かれていない点である。	「都市空間形成の方針」についてですが、本市の都市計画分野におけるまちづくりを進める「都市計画マスタープラン」の方針を、6つの視点で掲載しているものとなります。5つの「めざすまちの姿」においては総合計画における全ての分野でのまちづくりの方向性を示したものであり、上記の6つの視点を包含した形となっております。そのため、本計画上では5つの「めざすまちの姿」を推進し、将来像である「みんなで創り 好きになる 健幸都市きつき」の達成を目的としています。また、「溝井」、「立石」といった具体的名称については上述の「都市計画マスタープラン」上では示しておりますが、総合計画については杵築市全体のまちづくりを進めていく計画となりますので、具体的名称はあまり使用していない形式となっております。そして、「みんな」・「市民の視点」の内容については意見No.4で回答しているように21ページで説明をさせていただいている点や市民アンケート、市民ワークショップでの意見収集を実施させていただいております。いただいたご意見のように各地区の特色等がありますので、それを踏まえてまちづくりの推進に努めていきたいと考えております。
8	基本計画の「施策とめざすまちの姿の関係図」(36ページ)と「施策体系」構成図(37～38ページ)が、これまで述べてきた基本構想の構成と用語の問題点をすべて象徴している。 関係図(36ページ)で何を表現したいのか、意味不明である。一言で言えば、25施策を5つの「めざすまちの姿」分類する表の異常さである。空白欄を色付けしているため混乱に拍車をかけるが、表では空白欄の方が圧倒的に多く、焦点が定まらず支離滅裂である。一目で、25施策を整理する5つの指標分類に無理があることがわかる。すなわち、5つの「めざすまちの姿」が25施策を説明するのに吟味していないことがうかがわれる。ちなみに施策体系図(37～38ページ)では、きれいに整合性が取れているが、この相違をどう説明するのか。	36ページの「施策とめざすまちの姿の関係図」については、例えば農林水産業であれば、産業での事業内容もあれば、基盤整備に伴う防災・減災の事業内容があるように各「めざすまち姿」に横断的に寄与するものがあることを示している図となります。次に、37～38ページの「施策体系図」については各施策の取組内容を一覧として表示をしているものであり、どのような取組を実施していくかを詳細に示したものになります。

No.	意見の概要	市の考え方
9	最後に用語の問題である。35ページから始まる基本計画の章について、5つの「めざすまちの姿」が、36ページでは5つの長句の「みんなで～まちづくり」となり、37～38ページでは、5色の「色分け」となり句はどこにもない。39ページ以降では、「みらい」、「けんこう」、「にぎわい」、「くらし」、「しくみ」となっている。これでは、市議会を初め市民が行政の執行状況を議論するとき、あるいは総合計画の達成度を評価するとき、5つの「めざすまちの姿」を毎回何と呼べばよいのか。あえてひらがなにする意味が分からない。さらに指針の性格が薄まる。総合計画は市のお飾りでなく、市民、地域コミュニティ、行政、議会で使われなければ意味がない。「みんなで～まちづくり」や「みらい」、「けんこう」など、議論で使えない用語は、簡潔で適切な用語に置き換えるべきである。理念にすぎない「めざすまちの姿」は計画で用いる簡潔な用語である、「基本施策」、「政策分野」、「施策分類」などに置き換えるべきである。個々の内容については、「子育て・教育」、「医療・福祉」、「産業振興」、「安全・環境」、「財政規律」と、明確にすべきである。実際、36ページ以降記載の25施策は、簡潔な漢字が使われている。	37～38ページの施策体系図においては、各めざすまちの姿と同じ色を使って表現をさせていただいております。 38ページ以降の「みらい」、「けんこう」、「にぎわい」、「くらし」、「しくみ」の表現については36ページの「施策とめざすまちの姿の関係図」との関係性をめざすまちの姿のキーワードとしている「みらい」、「けんこう」、「にぎわい」、「くらし」、「しくみ」と同じ色で表現をさせていただいております。議論の際には『みんなで「みらい」を育む希望あふれるまちづくり』の名称を使うことを想定しております。